

1 「ステーション」設置について

(1) 設置の目的

在籍学級外教室を「ステーション」と称し、専任の担任教諭を配置する。

教室での学習・活動に不安のある生徒に対して、「ステーション」において継続的に関わることにより、生徒のコミュニケーションスキルの向上や将来の社会的自立に向けた支援を行い、不登校を未然に防止する。

(2) 「ステーション」の位置付け

- ・教室での学習や活動等に不安のある生徒が利用できる場とする。
- ・専任の担任教諭を配置し、生徒が通常学級において行っている諸活動と同等の活動を行うことができる場とする。

(3) 担任教諭の役割

- ・生徒のアセスメント
- ・個別支援計画の作成
- ・学習指導と支援（生徒の学習・活動の整理）
- ・個別の家庭訪問
- ・生徒や保護者との教育相談
- ・関係機関との連携
- ・所属学級の担任との情報交換
- ・利用手続きの整備

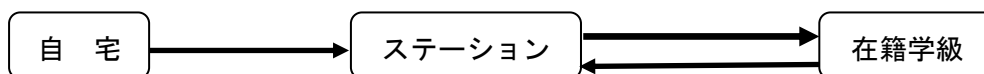
※不登校支援コーディネーターとしての役割も担う。

ステーション担任の一日の流れ（例）

- ・朝の会（出席状況の把握）
- ・授業（学活・道徳等を含む）
- ・給食指導（別室で配膳・給食）
- ・清掃指導
- ・帰りの会（授業等の連絡）
- ・日誌（利用生徒数の把握）の記入
- ・在籍学級担任との利用生徒の情報共有

(4) 期待される効果

- ・担任がいることで、利用生徒に安心感が生まれる。
- ・小集団の中で、人間関係づくりのスキルアップや社会性を身に付けることができる。
- ・ステーションの担任がコーディネーター役となることで、所属学級の担任や学年による抱え込みを防ぎ、教職員間の情報共有や連絡調整を円滑に進めることができる。



ステーションへ登校

ステーションで学ぶ・活動する

在籍学級で学ぶ・活動する

ステーションから在籍学級へ行く

在籍学級からステーションに戻る

2 ステーション設置校数

- (1) 令和2年度ステーション設置校（中学校5校）
- (2) 令和3年度ステーション設置校（中学校10校（5校増））
- (3) 令和4年度ステーション設置校（中学校20校（10校増））
- (参考) 令和5年度ステーション設置校（中学校25校（5校増））



ステーション利用生徒の様子

3 ステーション運営支援

(1) 在籍学級外教室「ステーション」連絡会の開催

在籍学級外教室「ステーション」の担任による情報交換会

- ・令和4年4月5日（火） 第1回連絡会（教育センター）
- ・令和4年6月1日（水） 第2回連絡会（教育センター）
- ・令和4年8月3日（水） 第3回連絡会（富沢中を会場）

- (2) 学校訪問対応相談員の週1回派遣（8名）
 - ・新規設置校等の運営支援（環境整備等）
 - ・生徒とともに掲示物を作成するなど、居場所づくりや環境づくりの手助けを行う。
 - ※令和4年度10校へ派遣
- (3) スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの派遣
 - ・令和4年度スクールソーシャルワーカー派遣実績：20設置校中12校に週1回程度派遣

4 ステーション利用生徒数

- (1) 不登校生徒の約3～4割が利用し、「居場所」「学びの場」として機能している。
- (2) 不登校生徒以外の利用もあり、未然防止につながっている。

ステーションの利用生徒数（令和2年度～令和4年度）（人）

年度（校数）	ステーション設置校の全不登校生徒	利用不登校生徒	利用割合	不登校生徒以外の利用生徒	利用生徒合計
令和2年度（5）	153	70	45.8%	79	149
令和3年度（10）	311	151	48.6%	168	319
令和4年度（20）	679	245	36.1%	209	454

5 ステーション利用アンケートから

- (1) 利用生徒
 - ・ステーションにいる友達とは話しやすいし、先生にも気軽に相談しやすくて、ありがたいと思っている。
 - ・教室より安心して通うことができます。自分の意見も出しやすくて、自分に合っていると思います。
- (2) 利用生徒保護者
 - ・学級に行く行かないの選択肢以外がありすごく良い。ワンステップあったからこそ教室に戻れた。
 - ・ステーションでリモート授業を受けたり、教科の先生に教えてもらうなど、少人数の中でしっかり学校生活を送り、たくさんの学びをいただいた。



ステーションの教室環境